



ほけんだより

平成22年 第115号



子育て施設課
0823-25-3144

子どもの心肺蘇生 (CPR: cardiopulmonary resuscitation)

わが国の病院以外で心停止の発生総数は、年間約10万件と推定され、(平成18年度厚生労働省科学研究丸川班) そのうち小児の占める割合は3~5%とされています。つまり、年間約3000~5000人の推定となります。

小児の一次救命処置 (BLS: basic life support) は、予防、基本的なCPR、救急医療サービスシステムへの迅速な通報から構成されます。

日本における1歳以上の小児の死因の第1位は「不慮の事故」です。また、いったん心肺停止に陥った小児の転帰率は悪く、病院外心停止における生存退院率は5~12%しかありません。一方、呼吸停止だけの状態で発見され、心肺停止に至る前に治療が開始された場合の救命率は70%以上とされています。このような考え方から、事故を未然に防ぐ対策をするとともに、早期に介入することにより、小児の心肺停止を予防することが重要です。

小児の正常心拍数は成人より多く、**60/分未満は心停止が切迫した状態**と言えます。この状態もしくは**呼吸数10/分未満の呼吸停止が、切迫した状態から心停止又は呼吸停止に至るまでは、予備力が乏しいことから極めて短時間**です。小児には、機敏なCPR開始の判断が要求されます。



小児は、呼原性心停止が多いことから、最初の人工呼吸の重みがより強調されています。

有効な人工呼吸を2回行いますが、1回目の人工呼吸が不十分な場合(胸がふくらまない)には、気道確保をやり直してから2回目の人工呼吸を試みます。

突然の卒倒で目撃がある場合は、小児でも成人と同様に**心原性心停止**と考えることができ、救助者が1人の場合は、最初に現場を離れてでも応援要請と資器材の手配を行い、その後にCPRを再開します。

日常的に小児の蘇生を行う手順（1人の場合）

- 1 肩を軽くたたきながら声をかけ意識を確認
↓
大丈夫!?
- 2 大きな声で人を集める
↓
突然倒れたり、他に救助者がいる場合は
緊急通報とAED（携帯型除細動器）の手配
- 3 気道の確保
↓
- 4 呼吸と脈拍の確認
↓
呼吸がない
- 5 人工呼吸 2回
↓
- 6 心臓マッサージ
↓
心臓マッサージ 30回と人工呼吸 2回を繰り返す
(アンパンマンマーチのテンポで！)

呼吸原性心停止

現場を離れず
すぐにCPR実施

心原性心停止

現場を離れて
でも応援要請と
AEDの手配

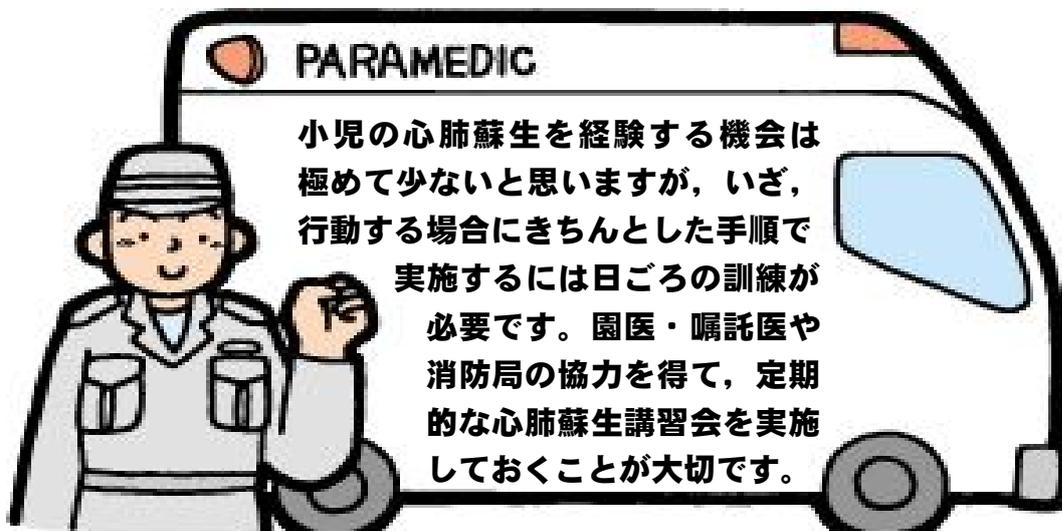
（10秒以内）
呼吸なく脈拍があれば
呼吸と脈拍を再評価し
（切迫した脈拍12～20回）
人工呼吸を行う。

他の救助者が確保できなかった場合は一連の処置を行った後に
緊急通報とAEDを確保（1歳未満は除く）
AEDの適応があれば実施し、適応がなければ5、6の蘇生を繰り返す

- 圧迫部位・・・乳頭を結ぶ線の真ん中
 圧迫強度・・・胸の厚みの1/3
 圧迫方法・・・乳児12ヶ月まで指2本
 幼児1歳以上は体格にあわせ
 両手・片手どちらでも良い

救助者が2人の場合

心臓マッサージ **15回**と
人工呼吸 **2回**を繰り返す



小児の心肺蘇生を経験する機会は
極めて少ないと思いますが、いざ、
行動する場合にきちんとした手順で
実施するには日ごろの訓練が
必要です。園医・嘱託医や
消防局の協力を得て、定期
的な心肺蘇生講習会を実施
しておくことが大切です。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.htm>